

地球温暖化の影響で熱中症件数が増加？

日本の年平均気温は、1898～2021年の間に、100年あたり1.28℃の割合で上昇。

気象庁の統計によれば、日本の年平均気温は、様々な変動を繰り返しながら上昇しており、長期的には100年あたり1.28℃の割合で上昇しています。特に1990年代以降、高温となる年が頻出しており、全国の真夏日と猛暑日の年間日数も増加しています。

高温、多湿、風が弱い、輻射源(熱を発生するもの)がある等の環境では、体から外気への熱放散が減少し、汗の蒸発も不十分となり、熱中症が発生しやすくなります。

厚生労働省の統計をみると、熱中症による死亡者数は増加傾向にあり、2010年以降は1,000人以上の死亡者数が出ている年もあります。

(参照)環境省「気候変動の影響」サイト <http://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/weather/>

2018年(5～9月)に

熱中症で救急搬送された人

9万5,137人

(過去最多)

総務省消防庁発表
(2018年10月25日)

いまや熱中症は大きな社会問題に！

熱中症は屋外のスポーツはもちろん、実は屋内のスポーツでも発生しています。



学校で実施する運動によって発生した熱中症(件数)のうち、屋内のスポーツが占める割合はどのくらいでしょう？



競技全体の約2割(23%)が屋内競技で発生！

バスケットボール

バレーボール

バドミントン

剣道

卓球

など

※熱中症の発生件数が多い上位5競技

学校管理下の熱中症発生件数の割合

屋内競技

- バスケットボール
- バレーボール
- 卓球
- バドミントン
- 剣道
- など

23%

屋外競技

- サッカー・フットサル
- 野球
- 陸上競技
- テニス(含ソフトテニス)
- など

77%

出典：日本スポーツ振興センター「学校の管理下の災害(令和2年版)」

「バスケットボール」や「バレーボール」は、気流の少ない室内環境で湿度が高く、運動量も多いために脱水症状になりやすい傾向にあります。また防具を着用して熱が逃しにくい「剣道」や、飛球への影響を考えると窓やドアを締め切った条件で練習・試合を行う「バドミントン」「卓球」なども注意が必要とされています。

屋内スポーツでの
熱中症予防対策

「窓・扉を開け、換気をよくする」
「気流を積極的に設ける」
「水分の補給を積極的に行う」